



## 「石ぼうちょう」には、なぜあなが開いているの



あなにひもを通して輪をつくり、輪に指を通して、「石ぼうちょう」をしっかりとぎるためだよ。

### 稲のとり入れに活躍した

「石ぼうちょう」は、稲のとり入れに使われた道具です。あなにひもを通して輪をつくり、その輪に人差し指を通してから、「石ぼうちょう」を手のひらににぎれば、「石ぼうちょう」が手からはなれにくくなります。弥生人は、「石ぼうちょう」をこのように使い、稲の穂を、つみとっていたようです。あなの数は、二つあるのがふつうですが、三つのものもあります。

### 「石ぼうちょう」のつくり方

「石ぼうちょう」をつくるには、まず、石を割って、だいたいの形をつくります。次に、その石をみがいて形を整え、刃をつくります。全体は細長い形で、一方のふちは曲線、もう一方は直線ですが、刃は、曲線のほうにある場合と、直線のほうにある場合の、両方があります。

### 当時は便利な道具だった

弥生時代の初めごろは、稲の品種が統一されてなく、同じ品種でも、成熟する時期がばらばらでした。密集した穂の中から、成熟した穂だけをつみとるには、「石ぼうちょう」のような道具が、たいへんつごうがよいようです。また、成熟した穂から先につみとっていくことは、品種を選別することにもなったようです。

